

別府恋歌

その55

第七章●泉都24時／長夜

▼ 18時00分 「いよっ 日本一！」

▼ 19時00分 「準備完了」

▼ 20時00分 「いつものように…」

それぞれの「長夜」

アフターファイブ。「己」を磨き、「自分」と向き合える時間帯だ。

趣味、勉強、スポーツ、ディナー、飲酒、デート…。市民はそれぞれの夜を過ごしている。

長期連載「別府恋歌」の第七章「泉都24時」。第三シリーズでは、午後六時から深夜までを描く。



「おひねり」が飛び交うステージに幕が下りると、役者たちが玄関先で観客を送り出す。石畳の温泉街には欠くことのできない貴重な文化だ

実にリズムカルである。週末の午後六時五分。市南部地区公民館（浜脇二丁目）の体育館では「浜脇子ども太鼓」が練習中だった。

161

18時00分

「いよつ

日本一！」

二〇〇九年二月二十三日

結成三十年を超えた地域の元気印。幼稚園児から中学生までの十四人が各種行事で“粋”を披露している。

「太鼓には人それぞれの性格が出る。奥深く、面白い」と指導する河村正孝（53）。休憩後、みんなでバチを握った。年長の斉藤理央（15）Ⅱ浜脇中三年Ⅱが「ハッ！」と声を上げる。どどどん、と重低音が下っ腹に響いた。

そのころ南立石公園（南立石）では、防寒着に身を固めた老若男女がピュアな空気を胸に吸い込んでいた。

イヤホンを耳に黙々とジョギングする青年。老夫婦が肩を並べ、仲むつまじくウォーキングに精を出している。

樹木が茂る一・二ヘクタールの緑地。パグとシバイヌの雑種犬を連れた荘園の女性（65）は「十年前から毎夕、車で通ってます。これから春に向かっていろんな花々が咲き誇る。最高の場所よ」。

午後六時二十分。十歳半の愛犬とともに、遊歩道の左カーブを曲がっていった。

それから十分後。

「ヤングセンター」（鉄輪風呂本）の幕が開いた。

昭和二十八年創業。関西方面から旅役者の一座を月替わりで招き、昼・夜の一日二回公演で湯治客を喜ばす。

義理と人情、涙と笑いの大衆芝居。鮮やかな殺陣。あで姿の歌謡ショー。「若いお客さんも多い。関東・関西からの“追っ掛けファン”も結構います」と話すのは支配人の寺本博文（36）だ。

約四百人のじいちゃん、ばあちゃんが座布団の上で目尻を下げている。常連客が陣取る最前列で、緑色のペンライトが左右に揺れた。



「この美容院には週に1、2回は通います」と松村。「ちょっと大きめのカールが最近のはやり」と石田

三一度。いい湯加減の市営温水プール（野口原）に男女十九人が飛び込んだ。午後七時。週一回の初心者水泳教室が始まった。

162

19時00分「準備完了」

二〇〇九年二月二十四日

生徒は二十一〜七十代。十年以上通い続ける常連もいる。

「この水質は抜群。水中で二十五メートル先がクリアに見渡せる」とベテランインストラクターの多田文明（59）。

全員、ビート板を手にした。透明な温水に顔をうずめると、両脚を伸ばしてバシャバシャと水面をたたいた。

そのころ、ラウンジ「アエラ」（北浜一丁目）のホステス松村美沙（25）は、出勤に備えて「変身中」だった。

高知市出身。十五歳の秋、知人を頼って泉都に來た。夜の街で「ミサ」と呼ばれて七年。「いろんな世界の、いろんな人と出会える。それがこの仕事の魅力…かな」

元町の美容院「ヘア ムーブ」で、自慢の長髪を「マーメイドアレンジ」してもらった。セットした石田京子（48）は「完ぺき。べっぴんさんやから、よく似合う」。

午後七時三十五分。赤と黒のドレスをひらり、ミサはネオン街に向かった。

そのころ、年配の男女四人が座席で足を組み、銀幕が輝く時を待っていた。

泉都唯一の一般映画館「別府ブルーバード劇場」（北浜一丁目）。昭和二十四年の開館から「還暦」を迎える。

夫を亡くして約四十年。女手一つで看板を守る岡村照（77）は「私には映画しかない。ほかのことしきらんけんあ」。いい作品でしたよ、と笑顔で観客が去ってゆく。「その瞬間は本当に幸せ」

午後七時二十分、八十席の館内にブザーが鳴る。湯の街を愛した織田作之助原作の名画「夫婦善哉（めおとせんざい）」が始まった。



昭和35年6月5日、青山小学校PTAのコーラス部として発足した。以来49年間。伝統ある歌声を湯の街に響かせている

美しいコーラスが如月（きさらぎ）の夜を奏でた。
 発足から四十九年の「B混記念合唱団 クールあおやま」。美声

163

20時00分「いつものように…」二〇〇九年二月二十五日

を持つ各年代層の五十一人が所属し、週二回、南荘園の練習場でハーモニ―を磨いている。

合唱は人生の幅を広げるためにある。「だからコンクールには出場しない。優劣を決めるために歌いたくない」と団長の村津忠久(80)。「生きてることを実感する―それがコーラス活動の魅力です」午後八時。会員は各パートの旋律を重ね合わせた。

そのころ、舌の肥えたグルメたちはカウンター席に座り、さりげなく別府湾の幸をつまんでいた。

県内外にファンを持つ寿司(すし)店「大和田鮨(ずし)」(北浜一丁目)。三十二年前、新宮通りにのれんを出し、十八年前、現在地に店を移した。

店主は和田富徳(61)。「今の別府？ そら昔んような『にぎやかさ』がないわな」

小気味よく、繊細にシャリを握る。「でもあれよ、おいしい物、いわゆる“本物”を食べようと思ったらやっぱり別府に来(こ)な」午後八時二十分。今夜も全三十六席は埋まった。

そのころ、鶴見七組の学習塾「トウワン学習室」では蛍光灯の下、生徒二十二人が問題を解いていた。

塾生は幼稚園児から高校生までの約六十人。フロアを仕切り、個別指導で一人一人の「可能性」を導き出す。

講師は十人いる。五年目の手嶋奈々子(24)は「生徒には何度も繰り返し教える。根気がある仕事ですけど、やりがいがあります」。男子高校生が入ってきた。午後八時四十分。いつものように靴を脱ぐと、いつもの勉強机にいつも通り座った。

■オオイトデジタルブックとは

オオイトデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN (なんなん)」の一環です。

NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・

追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたいと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「別府恋歌」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。まずは、クリック!!!



デジタル版「別府恋歌」 その 55

編集 大分合同新聞社
 初出掲載媒体 大分合同新聞 (2007 年 10 月 22 日～2009 年 3 月 14 日)
 《デジタル版》
 2011 年 3 月 18 日初版発行
 編集 大分合同新聞社
 制作 別府大学メディア教育・研究センター 地域連携部 / 川村研究室
 発行 NAN-NAN 事務局
 (〒 870-8605 大分市府内町 3-9-15 大分合同新聞社 企画調査部内)

●デジタル版「別府恋歌」について
 「別府恋歌」は、大分合同新聞社が 2007 年 10 月から翌 2009 年 3 月まで、同紙夕刊に掲載した連載記事。今回、デジタルブックとして再構成し、公開する。登場人物の年齢をはじめ文中の記述内容は、新聞連載時のもの。
 2010 年 2 月 26 日 NAN-NAN 事務局